

覚醒下手術から始まる統合医療 1 および 2



篠浦伸禎

都立駒込病院

当院では主に脳腫瘍に対して覚醒下手術を過去 400 例以上施行しており、聴神経腫瘍や運動領の腫瘍や脊髄腫瘍も含めて様々な部位の腫瘍に対して術後の症状の悪化を防ぐことができるようになった。それに関して具体例を挙げながらのべたい。また、覚醒下手術で術後の症状の悪化を防いだうえで、その後の放射線化学療法を施行するときに、ご希望する患者さんには統合医療を併用して、いい手ごたえをえているのでそれに関してものべたい。さらに、覚醒下手術で新たにわかった脳機能も含めて、認知症などの脳の病気を統合医療でどう防ぐかに関してものべる予定である。

(略歴) 1958 年 2 月 24 日生まれ

1976 年 3 月 私立愛光高校卒業

1982 年 3 月 東京大学医学部卒業

同年医師免許取得。東京大学医学部附属病院、国立国際医療センター等に脳神経外科医として勤務する。1988 年日本脳神経外科学会専門医を取得する。1992 年東京大学医学部の医学博士を取得する。シンシナティー大学分子生物学部に 3 年間留学、帰国後 2000 年より都立駒込病院脳神経外科医長として勤務し 2009 年都立駒込病院脳神経外科部長。著書は「脳にいい 5 つの習慣」「脳腫瘍機能温存のための治療と手術」など多数。脳外科における覚醒下手術のトップランナーであり、週刊現代の 2015 年 12 月 12 日号において「信頼できる医師」の特集の脳外科部門で唯一選ばれ、また、夕刊フジの 2017 年 4 月の町のブラックジャック特集においても脳腫瘍部門において唯一選ばれた。